

多様化する社会における 映像メディア による表現の可能性

～オーストラリアの多文化主義政策に学びながら～



日程 **4月18日(土)** AM11:00～PM6:00
場所 新潟大学 駅南キャンパス「ときめいと」
主催 新潟大学美術教育研究会
共催 美術科教育学会
後援 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会
参加料 無料

【映画上映】『映画を作る子どもたち ～オーストラリアの挑戦～』

11:00～12:00

製作・監督 千葉茂樹 (2007 年)

【ポスタープレゼン】

12:00～13:00

浪江町立津島小学校、新潟市立潟東中学校、福島県立本宮高等学校、新潟県立新潟盲学校
神奈川県立大和高等学校、新潟コンピュータ専門学校、新潟大学、他

【基調講演】

13:00～14:40

ジェーン・ミルズ (ニューサウスウェルズ大学)

“Beyond the Literal: Movie Magic and the Imagination”

塩原良和 (慶應義塾大学)

「対話的な多文化主義に向けて」

柳沼宏寿 (新潟大学)

「美術教育における“映像メディアによる表現”の意義と可能性」

【研究発表】

15:00～16:20

杉田このみ (千葉商科大学)

「高等教育における映像制作とその実践報告」

中山 周治 (神奈川県立大和高等学校)

「パラパラ映画『ザ・エベレーター』～映像編集を学ぶ教材の開発～」

長谷 海平 (一橋大学)

「“映画の制作”を教育的手段として考察する」

【パネルディスカッション】

16:40～18:00

コーディネーター : 柳沼宏寿 (新潟大学)

パネラー : 宮脇 理 (Independent Scholar/ 元筑波大学教授)

: 千葉茂樹 (日本映画大学特任教授)

: ジェーン・ミルズ (ニューサウスウェルズ大学)

: 塩原良和 (慶應義塾大学)

多様化する社会における映像メディアによる表現の可能性

～オーストラリアの多文化主義政策に学びながら～

美術教育における「映像メディアによる表現」の可能性について日豪の研究や実践を基に検証します。多民族国家のオーストラリアには、多文化主義政策の一環として「映画制作」を教育活動に取り入れた実践があります。その成果は、今後益々多様化が進む日本においても参考にすべきものです。基調講演として、先行研究に取り組んできたニューサウスウェルズ大学のジェーン・ミルズ先生とオーストラリア多文化主義の研究者である慶應義塾大学の塩原良和先生をお迎えします。これからの社会において「映像メディアによる表現」はどのような意義を持つのか、造形表現のツールとしての展望と新しい時代のリテラシーを構築する手がかりにつなげていきたいと考えています。

【Keynote speaker】

Jane Mills (ジェーン・ミルズ)

ニューサウスウェルズ大学准教授。博士。アーツ&メディア学科。TVやドキュメンタリー映画の制作多数。映画、メディア、スクリーンリテラシー、検閲、フェミニズム、社会言語学、人権、等々広く執筆や報道に関わる。現在はスクリーンリテラシー、コスモポリタニズム、批判地理学、移民者による映画などを研究。監修、Australian Screen Classics(co-published by Currency Press and the National Film & Sound Archive)、著書、Jedda (2012)、Loving and Hating Hollywood : Reframing Global and Local Cinemas(2009) and The Money Shot: Cinema Sin and Censorship (2001)。

塩原 良和 (しおばら よしかず)

慶應義塾大学法学部教授。慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程単位取得退学。博士(社会学)専門分野は国際社会学、多文化主義研究、オーストラリア社会研究。日本における外国人住民支援・多文化共生のあり方にも関心をもち、調査や実践を行っている。主著に、『共に生きる一多民族・多文化社会における対話』(弘文堂、2012年)、『変革する多文化主義へーオーストラリアからの展望』(法政大学出版局、2010年)、『ネオ・リベリズムの時代の多文化主義ーオーストラリアン・マルチカルチュラリズムの変容』(三元社2005年)などがある。

柳沼 宏寿 (やぎぬま ひろとし)

新潟大学教育学部教授。博士(教育学)。美術教育における学びを授業研究や地域連携アートプロジェクトを通して研究している。現在は、子どもの制作した映像作品を映画館で上映するシネリテラシーフェスタや大正～昭和の児童画研究(十日町市下川手集落)、日本海タココンサートアート部門などを推進。著書『生命論パラダイムからの美術教育』(喜怒哀楽書房、2013年)、論文「認知的方略の自覚化による美術教育」(第35回教育美術賞、2000年)、「教育芸術として立ち上げる総合学習～原田真二さんとのコラボレーション～」(第50回読売教育賞、2001年)、他。

【Oral Presenter】

杉田このみ (すぎた このみ)

千葉商科大学政策情報学部助教。2007年武蔵野美術大学大学院博士課程単位取得退学。一橋大学情報基盤センター助手を経て2014年9月より現職。映像作家。2000年より故郷をテーマに市民参加型の映画制作活動が続いている。2013年に制作したドキュメンタリー映画『原発被災地になった故郷への旅ー福島県南相馬市ー』が映文連アワード2014で部門優秀賞受賞。また、地域に根ざしたアート・映像表現についての教育と研究を行う。日本映像学会、環境芸術学会に所属、情報コミュニケーション学会評議員。ビデオジャーナルライター。

中山 周治 (なかやま しゅうじ)

神奈川県立大和高校教諭。日本映画大学非常勤講師。大学では「シネリテラシー研究」を担当。高校生による映画評論プロジェクトの一環で季刊冊子『wakaba』を発行。前任の相模原青陵高校で学校設定科目「パフォーミングアーツ」「メディアアーツ」を創設し、地域アートプロジェクトを展開、1学年(280人)総合学習でも、演劇、映画などを通じた社会参画のプロジェクトを実施した。現任校では自作戯曲「けさらん、ばさらん。」で県演劇発表会最優秀賞を受賞。かながわメディアリテラシー研究所を仲間と主宰。共著『メディアリテラシー教育の挑戦』『量とメディアリテラシー』『書のまとべ』

長谷 海平 (はせ かいへい)

一橋大学助教。東京芸術大学大学院映像研究科博士課程単位取得退学。映画の制作をモチーフとし、芸術や情報に関する教育実践研究を行う。一橋大学研究プロジェクト「映像資料アーカイブ運用に関する汎用的フレームワークの構築」の主要メンバーとして映像アーカイブに関する研究に参画。映像作家。「Session」「A little match making party」(以上共同監督作品)「Nekohai」「Seek!Seek!」等の長・短編映画が二〇カ国以上の国際映画祭に入選・入賞。映画の制作ワークショップ「カントク!カオだらけです!」は第二回キッズワークショップアワードで審査員特別賞を受賞。

【Panelist】

宮脇 理 (みやわき おさむ)

Independent Scholar / 元・筑波大学教授。博士(芸術学)。日本の美術教育先駆者として工芸・ものづくりを通じた感性教育の発展に尽力。1953年東京教育大学(現筑波大学)卒業。文部科学省教科調査官、岡山大学教授、横浜国立大学教授、筑波大学教授、上海・華東師範大学顧問教授、他歴任。元美術科教育学会代表理事。著書『工芸による教育の研究』(建帛社、1993年)『感性による教育』(国土社、1988年)他多数。訳書エルンスト・レットガー著『土による造形』(造形社、1977年)、ハーバード・リード『芸術による教育』(宮脇理・直江俊雄・岩崎清共訳、フィルムアート社、2001年)他。

千葉 茂樹 (ちば しげき)

映画監督、脚本家。日本映画大学特任教授。市民グループ「地球家族の会」代表。劇映画『一粒の麦』(1958)、『こころの山脈』(1965)他脚本多数。ドキュメンタリー映画『マザー・テレサとその世界』(1979)でキネマ旬報文化映画作品賞など受賞多数。『豪日に架ける=愛の鉄道』(1999)、文化映画『シネリテラシー映画をつくる子どもたち=オーストラリアの挑戦=』(2006)、『マザー・テレサと生きる』(2010)。第29回毎日福祉顕彰受賞(1999)、2006年豪日交流基金賞を受賞(2007)。第26回カトリック国際映画祭 福音的メディア特別賞(2011)。

Poster Presentation

「映像メディアによる表現」の実践報告をポスター発表します。作品や実践記録の映像を実際に流しながら紹介します。様々な立場、状況からの発信をぜひご覧下さい。

浪江町立津島小学校
新潟市立潟東中学校
福島県立本宮高等学校
新潟県立新潟盲学校
神奈川県立大和高等学校
新潟コンピュータ専門学校
一橋大学情報基盤センター(長谷海平)
新潟大学 他

【会場】新潟大学 駅南キャンパス「ときめいと」

〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口1丁目1番地 プラカ1,2F
Tel: 025-248-8141 E-mail: tokimate@adm.niigata-u.ac.jp

*会場は新潟駅に直結しています。新幹線東口改札を出て直進し突き当たり東側通路を右へ。左手すぐ PLAKA1 が会場です。

【新潟駅までのアクセス】

- JR：上越新幹線(JR東京駅から約2時間)
- 航空機：新潟空港からリムジンバス(新潟駅南口行き)で約25分
- 自動車：関越道は「新潟西IC」、磐越道は「新潟中央」で下りて約10分。(専用駐車場はありませんので周辺の有料駐車場をご利用下さい。)

